

【巻頭言】

母校への想い

黒田 大悟（短3回生）

校友会の目的は「会員相互の親睦を図り、並びに京都医療科学大学の発展を後援する」と記されています。私も理事を拝命して6年目となりますが、この目的を達成するために微力ながらも会の運営に協力させていただいています。

初めての理事会に本学を訪れた際は、卒業後20年近くの変化に驚くとともに懐かしさがこみ上げてきました。学生時代には京都駅から1時間かけて通った嵯峨野線が快速電車で40分足らずで園部に着くこと、園部駅前にコンビニがあること、敷地に入っすぐに大学の新校舎が開設されていること(昨年にはさらにもう一つの新校舎が開設されました)。しかし、理事会終了後の懇親会は「あずまや」でのバーベキューというアットホームな雰囲気、学生時代に戻った気分になりました。今では理事会や就職懇談会、学園祭など年に何回かの本学への訪問は、私にとって楽しみの一つとなっています。

さて、私たちの母校といえば京都医療科学大学ですが、各人の成長の過程には種々の母校が存在すると思います。現在私は自分が生まれ育った地区に居住して

いるため、私の母校である小・中学校が娘二人(現在高1と中2)の通う学校となります。運動会や参観、入学式、卒業式などの学校行事に参加した際には、大学を訪れた時と同様の懐かしさを覚えます。また、保護者の中には私と同様に卒業生も比較的多く、同級生や先輩、後輩とよく再会するため、ちょっとした同窓会気分も味わえます。

その小学校に娘二人が通っていた数年前、当時の校長先生から「PTAとは別の組織で、父親だけの会を作って活動してみても？」というお話があり、卒業生の父親を中心に「おやじの会」という組織が結成されました。特に会則を設けず「できる時に、できる人が、できる事を」を合言葉に、周年記念行事の看板作成、廊下の交通表示ペイント、壁のペンキ塗り、運動会の準備・片付け・交通整理など、女性中心のPTAとは違った視点からの活動を行いました。現在は、娘二人ともに小学校を卒業して直接関与することはなくなりましたが、大きなイベントがあるときには声が掛かり、「おやじの会OB」として参加することもあります。

また、次女が現在通っている中学校では、教員の働き方改革の一環で部活動の活動時間が制限されることになりました。次女が所属するソフトテニス部の部員と顧問の先生は活動に意欲的ですが、制度として従わざるを得ません。そこで、社会体育としてのクラブチームを立ち上げて、学校での部活動とは別の組織として活動を行うことにより、練習時間の補填や対外試合への参加ができるようにサポートをしています。

このように私が行っている活動は、保護者として当たり前のことかもしれませんが、自分の子どものためだけでなく、親子二代に渡ってお世話になった母校への恩返しという意味もあります。少し大袈裟な言い方をすれば、校友会の目的にある「母校の発展を後援する」につながるものと考えています。

園部で過ごした学生時代は、教職員の方々にご迷惑ばかりお掛けしていましたが、何とか卒業することができ今の自分自身が在るのも母校のおかげだと感謝しています。そして今、その母校に恩返しをするという気持ちで、校友会理事を務めさせていただいています。

校友会員の皆さんも診療放射線技師としての出発点である母校に想いを馳せ、校友会活動に参加してみてください。懐かしさや楽しさだけでなく、新たな出会いや可能性を見つける機会になると思います。遠方の方にとっては難しいことかもしれませんが、2年毎の総会は京都と地方での交互開催となっていますし、全国各地では支部総会も開催されています。そして、会員同士の親睦を深めて、母校の発展を共に後援していきましょう。

以上